

笑顔につながる食事を

～ひとりひとりの思いに添った食へのアプローチ～

食べたいという思い

アセスメント・評価

楽しい食事会

キーワードについては
必ず3つ記入の事！！

特別養護老人ホーム 暢寿園

発表者
(研究者)介護職員 安田 果菜子 安田 光孝
(介護主任 阿部 麻衣子 管理栄養士 富士 一恵)

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人	経営主体	千歳福祉会
開設年月日	昭和54年4月1日	所在市町村	千歳市
市町村人口	94,820 人	65歳以上人口 (高齢化率)	19,509 人 (高齢化率 20.6 %)
利用者定員数	100 人	利用者平均年齢	84.6 歳
職員数	65 人	職員数内訳	介護職 36名 看護職 7名
併設施設・事業			
施設のサービスの概要	利用者の生活の場であることを念頭に置き、集団生活への調和と安全性に配慮しながら利用者一人一人の個性や生活歴を尊重し、生活に楽しみを見出して頂けるよう出来る限りの個別ケアを提供しております。		

発表の概要

①取り組んだ課題

ご利用者の笑顔がたくさん見られる為に、個々人の状態や思い、嗜好等に添った楽しい食事会（食事を通じたレクリエーション）実施の取り組みと共に、摂取量が減少しているご利用者には、他職種が連携し、最期まで口から食事をして頂くために、栄養確保するだけでなく「食べたい」という思いを持って食事をして頂くことを課題としその取り組みを報告する。

②具体的な取り組み

生活の中での楽しみのひとつである「食事」を、更に楽しんで頂く為に、ご利用者ひとりひとりに添った嗜好や状態等のアセスメントを行い、外食や出前、屋外食を立案、実施に取り組んだ。また、退院してから食事摂取量の低下が見られたMさんに対して、食事の形や量、見た目などご利用者に添ったアプローチを行い、ご利用者の変化についてアセスメントし、自ら「食べる」思いになって頂く食事を提供するため、介護職員、管理栄養士、調理委託会社職員が連携し取り組んだ。

③活動の成果と評価

外食、出前、屋外食の時のご利用者の笑顔がきっかけに恒例のレクリエーション（楽しい食事会）として継続されている。また、Mさんの食事内容を定期的に見直すことで、自ら「食べる」という思いから摂取量の確保も実現されており、他利用者にも生かされている。

④今後の課題

楽しい食事会として、外食、出前、屋外食をご本人の状態に合わせて実施されているが、今以上に細分化し、参加回数を多くすることでさらに笑顔がみられると考えられる。また、Mさんの食事内容のバリエーションをもっと増やすことで、他利用者にも生かされるが、個別の対応が増えることで調理職員の限界もみられる。調理職員と連携を図り、今後さらに個別対応が出来る工夫が必要であると考えられる。

⑤参考資料など

小池妙子;摂食障害のある人に期待される介護食の食事ケア,介護福祉、春季号No. 97, 13-30, 2015.
枝広あや子; 認知症に伴う食べる機能の障害を支えるケア,介護福祉、春季号No. 97, 61-69, 2015